

■2013 年度 事業をふりかえって

エイブルアート・ムーブメントの拠点として、A/A gallery やオフィスの意義や役割を確認し、会員やネットワーク団体で共有し活かしあいながら、活動していく年にしたいと目標を掲げた 2013 年度。

重点項目としていた運動性と事業性の両立はどのようなものであったか。

運動性の視点からは、関東の施設職員を対象とした夜間の勉強会シリーズ、東北の福祉施設職員を対象としたセミナー（受託事業）、研究会や対話形式のイベントを開催し、東日本地域のネットワークハブになりつつあると感じている。

事業性の視点からは、A/A gallery が商業ギャラリーとして 3 人のアーティストに焦点をあてて、国内外に作品を巡回し販売実績をあげる試みをした。作家交渉・額装・価格決定・展示・販売・納品までの一連の流れができ、一方で取引作家もふえつつある。エイブルアート・カンパニー事業は、企業に対し、著作権使用の取組だけでなくギフトやノベルティ提案を行い、新しい仕事の領域をひらいた。

少しずつではあるが、自立運営のための事業の方向性がみえてきている。

特筆すべきは、データベースの改変とウェブサイトのリニューアルである。データベースでは、17 年間の会員や寄付者、関係団体などの情報を新しい基盤に移行した。ウェブサイトもデザインや機能を一新し、全国からよせられる情報の発信に力をいれた。まだまだ情報発信の方法や頻度は追いついていないが、改善するための地固めはできたと考えている。

社会の中で必要とされる組織になる。社会的に弱い立場の方たちとともに、まだ切りひらくことのできていないプログラムやコミュニケーションの回路をつなぐ団体でありたい。会員のみなさんの声や応援を引きうけて、組織の在り方や自立のための事業をひき続き実践する。

- 会員と交流し情報交換を行うこと
- 失敗を恐れず実験的な事業に取り組むこと
- スタッフやボランティアと協働して事業を推進すること
- 事業の参画者となるべき次世代の人材を育成していくこと
- 組織の経営状況を意識できるような財務の方法を確立すること
- 改善したウェブサイトを通し活動を広く社会に告知すること
- 支援者や会員を募っていくこと

■事業内容

[総務]

1. 会議等の業務

(1) 第3回通常総会の開催

日時：2013年5月25日(土)13:00~15:00

会場：A/A gallery内(東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田3331)

- 2012年度事業報告(案)・活動計算書(決算)案の承認
- 2013年度事業計画(案)・活動計算書(予算)案の承認
- 役員人事の改選/定款の変更について

正会員総数129団体/個人のうち、70団体/個人が出席(うち書面表決者63名)と定款第27条に規定する総会の定足数を満たしており、総会は成立。また、2012年度事業報告(案)および決算(案)、2013年度事業計画(案)および予算(案)、定款の変更および理事の変更に関する提案などについて全員意義なくこれを承認した。

- ◆ 成果と課題：2012年度第2回総会の際、定足数を満たすための作業に手間取った反省をいかし、総会成立のための告知を徹底した(封筒表面への印字、鏡文での繰り返しの説明)。実際の会員の出席は7名、書面評決の数は63名で昨年よりも返信が増えたが、音信不通は60名。会員の状況把握や意見の吸い上げには依然として課題が残る。
- ◆ 特記：総会后に、アーツ千代田3331のコレクター展と連動したテーマでトークイベントを開催した。会員・川上文雄さんによる「もうひとつのエイブル・アート~私と作品と作家と学生と」。

(2) 理事会の開催

◎第5回：2013年4月17日(水)18:00~20:00 会場：A/A gallery内

- 2012年度事業報告(案)・活動計算書(見込み)の承認
- 2013年度事業計画(案)・活動計算書(予算案)の承認
- 役員人事の改選/定款の変更/会員制度 ほか

◎第6回：2013年10月25日(金)18:30~20:00 会場：A/A gallery内

- 2012年度事業の中間報告および収支計算書の上半期決算と補正予算案
- 役員人事について(報告と承認)
- 次年度事業の検討

2. 会員に対する業務

- 会員の入会、継続、休会に伴う業務
- 第3回総会の案内と議案を送付(2012年度事業報告・活動計算書および2013年度事業計画・予算書)
- ニュースレターと各種事業案内を送付(総会の報告で6月、秋冬の事業案内で10月、冬春の事業案内で2月)

実施内容と成果：会員および参加者・支援者のデータベースを新規で構築した(ファンドレックス社の社会貢献活動の一環としてNPOに無料提供される「セールスフォース」を導入)。運用についての組織内でのルール化、個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、

寄付への呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報などの発信・申込み管理などは次年度の課題。

*申請・導入・既存の名簿の移行・スタッフ教育は福澤理事が実施。

- ◆ 報告：定款第9条によって「会員の資格の喪失（3）継続して3年以上会費を滞納したとき。」にあたる方たちが13人。第3回通常総会で意見交換した通り、これに該当する方たちにはこれまでの御礼と継続の願いを送付した（6月・12月の更新月）。

◆ 参考データ

2013年4月10日現在	2013年10月25日現在	2014年4月30日現在
会員数 129 人／団体 <u>退会者 9、新規入会者 6</u> 内訳：法人会員 1、団体会員 1、 個人会員 127 （うち理事監事 17）	会員数 121 人／団体 <u>退会者 2、新規入会者 1</u> 内訳：法人会員 1、団体会員 1、 個人会員 119 （うち理事監事 14）	会員数 108 人／団体 <u>退会者 18（3年以上未納の方 11 名）、</u> <u>新規入会者 5</u> 内訳：法人会員 1、団体会員 1、個人 会員 103（うち理事監事 14）

3. 経理などの業務

- 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明らかにする。
- 現金等の動きについて記録し、月次ごとに資金の動きを明確にする。
- 税務に関する業務として、法人税・源泉徴収税・消費税の税務関連の業務を行う。
- 業務を財団法人たんぼぼの家に委託する（エイブルアート・カンパニー事業部の担当者と兼任）。
- ◆ 報告：設立当初より監事であった会計事務所の高山篤さんが6月末で退任となった。そのため、財団法人たんぼぼの家が契約している森田会計事務所に、会計管理・決算および税務に関する業務を委託した。

4. 労務管理などの業務

- 法人に関連する業務を行うスタッフが円滑に仕事を進めることができるよう労務面等において配慮する。
- 法人がスタッフを雇用していく時期を見越し、各種規定などを整備していく。
- ◆ 特記：当法人単独では、まだスタッフの人件費をねん出できる状況ではないため、残念ながら雇用には結びついていない。各種事業のボランティアやインターンの受け入れをすすめながら、エイブルアート事業全体のなかでの雇用も視野に入れる。

5. 総務関連などの業務

- 業務運営に必要な届出業務を行う。
NPO法人として東京都への2012年度事業報告・活動計算書の提出（毎年6月末締切）
- 当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応を行う。
- ◆ 報告：NPO法人として東京都への2012年度事業報告・活動計算書の提出（6月末済）
5月総会と10月理事会の議事録をもって、代表理事の変更の届け出と印鑑登録人の変更（2014年4月済）
- ◆ 特記：通帳の名義人の書き換え（未決）

[企画事業]

1. A/A gallery 事業

◎ 方針

A. A/A gallery で紹介してきた作家等の原画販売の窓口となる。また、エイブルアート・カンパニー事業のショールーム的機能をもたせ事業的な側面を強化する。

B. エイブルアート・ムーブメントの発信拠点として重要なテーマの発信基地にする。障害のある人のすぐれた表現・作品の展示、「障害とアート」の多様性をみせる展示、「アートと社会」の関係性をみせる現代的なテーマを紹介する展示など。

C. エイブルアート・ムーブメントに関わる人や団体に対して貸しスペースとし、多様な表現や試行を発信する場とする。

◎ 運営のサイクル

・企画事業の際は、木・金・土・日にオープン。2012年度は2週間単位のサイクルにしていたが、実質のオープン日が短く、労力の割には鑑賞の時間がつくれていなかったため、2013年度はこれを3週間単位のサイクルに変更している。貸し事業の際は、随時相談。

・夏季休暇、年末年始休暇あり。

(1) A/A gallery における展覧会

●第23回企画展「A/A gallery セレクション」

会期：〈vol.1〉4月6日～21日 〈vol.2〉5月9日～26日

【出展作家】川村紀子 齋藤裕一 谷本光隆 山野将志 松本倫子 三井啓吾 村山太一
アーツ千代田 3331 の一階メインギャラリーで開催された「コレクターフェア展」にあわせ、川上文雄コレクションに関連する作家の作品を紹介した。

◎2013年度通常総会関連企画 5月25日 川上文雄さんによるトーク「もうひとつのエイブル・アート～私と作品と作家と学生と」

●第24回企画展 存在と生活のアート vol.6 「修平さん、いらっしやい! ～ぼくの友が、彼の友へ～」

会期：7月4日～7月21日

協力：奈良県障害者アート創出事業実行委員会

奈良県障害者芸術祭「アートリンク・プロジェクト」で発表された、山口修平と宮本博史が2年越しで取り組んだ交流の記録を展示した。

◎障害とアート研究会 7月6日 15:00～ 出展者の宮本博史によるギャラリートーク。参加費：一般 1,000円、ユース（25歳以下）およびエイブル・アート・ジャパン会員 500円



●第25回企画展 存在と生活のアート vol.7 「Lifemap」

会期：7月25日～8月11日 協力：財団法人福岡市文化芸術振興財団

福岡のNPO法人まるが、(財)福岡市文化芸術振興財団からの委託事業として2007年度より毎年開催している「Life Map」展。今回は、



九州各地ではたらき、表現する人たちの日常をおさめた映像と詩を展示。

◎公開リーディング&ギャラリートーク 8月3日 15:00～ 出展者の濱野歩、泉山朗土、湯山千景による公開リーディングおよびLifemap 企画者・樋口龍二によるギャラリートークを行った。参加費：一般 1,000円、ユース（25歳以下）およびエイブル・アート・ジャパン会員 500円

●第26回企画展 存在と生活のアート vol.8 「うふっ。どうしちゃったの、これ！？～埼玉県の作家たち」

会期：8月29日～9月15日 協力：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会事務局

2012年に開催された埼玉県内の障害のある人たちの表現を集めた展覧会「うふっ。どうしちゃったの、これ！？」展より10名の作家をピックアップした作品展示。

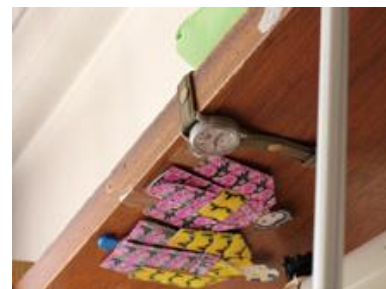
◎関連トークイベント 障害とアート研究会 9月7日 15:00～ 参加費：500円（1ドリンク付） ディレクションを担当された中津川浩章さんと、企画・運営を一緒に行った「埼玉県障害者アートマネジメントワークショップ」のメンバーを中心に、展覧会づくりを通して見えてきたことを、福祉施設と地域の視点から議論。



●第27回企画展 「もの と ことば の ポートレイト」

会期：9月26日～10月13日 企画：財団法人たんぼぼの家 協力：奈良県障害者アート創出事業実行委員会、Port Gallery T

◎関連イベント 10月6日 写真家・キリコさんによるギャラリートーク。奈良医療センターのパンダ病棟に長期入院している、筋ジストロフィーや、重度の障害のある17名の患者さんに「みなさんが毎日『大事にしていること』を教えてください」と質問し、身の回りのものを撮影した写真展示。



●特別展示 『ふたば製作所がやってきた！ 「つながりのかばん 28」 』

会期：10月25日～10月27日

主催：JDF 被災地障がい者支援センターふくしま 共催：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

特別協力：NPO 法人 La Mano、クロスロードアーツ（オーストラリアの障害のある人・高齢の人などが被災地への寄付を目的に制作したバッグとポストカードの展示・販売）

福島県双葉の障害のある人たちで、使用済みの封筒でカバンを作っている「ふたば製作所」を紹介。



●第28回企画展 藤橋貴之 展

会期：10月31日～11月10日

11月1日[金]17:00～19:00 アーティストトーク&パーティ

2003年度エイブル・アート・アワード [展覧会支援の部]受賞作家の新作20点余りを展示。東京での初めての販売の機会となった。従来のファンとともに、アーツ千代田関連の作家が購入し作品の評価も得た。



トーク&パーティには、作家とご家族が京都から参加。所属施設の工房ソラのメンバーも東京観光を兼ねて来廊。

●第29回企画展 星野祥代 展「あの夏の記憶」

会期：11月21日～12月1日

11月23日（土）16：00-18：00 アーティストトーク&レセプションパーティ 2011年度エイブル・アート・アワード [展覧会支援の部]受賞作家の約30点の木版画の新作展。作家自身による企画展と位置づけ、作家本人が会場を構成。

トーク&パーティでも、ほかの障害のある人にも版画制作をする手助けをしたいという星野さん自身の思いを受け、作家自身が制作の様子や道具を紹介した。



◎特記：藤橋貴之さんと星野祥代さんの作品は、ルクセンブルグ「cooperation gallery」（12月～2014年1月）、奈良・たんぽぽの家 HANA ギャラリー（3月）に巡回展示。藤橋さん作品は計4点[36万]、星野さん作品は計12点[13.5万]を販売した。

主催：COOPERATIONS（ルクセンブルク）、共催：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン、輸送協力：UPS（企業CSR代理店：オグルヴィピーアール株式会社）

●第30回企画展 「Christmas Gift Collections」

会期：2013年12月5日～25日

Able Art Company 期間限定ショップ「HUMORA BOX ～つながるプレゼント～」との同時開催。15団体・個人の出展協力により、総勢28作家の作品を展示。新たな試みとして11名の作家に同サイズの箱への描き下ろし作品を出展してもらい、計12点の作品を販売。

箱作品の一部は、奈良・たんぽぽの家 HANA ギャラリーに巡回した。



●第31回企画展 存在と生活のアート vol.9「関わりの場所～アトリエの現場から」

会期：2014年1月16日～2月2日

障害のある人もない人も、ともに創作する場として開かれてきたふたつのアトリエ「エイブル・アート芸術大学」（ディレクション協力：中津川浩章さん）と「アトリエ・ポレポレ」（映像：渡辺一充さん）を紹介。芸大参加者2名2作品は来廊者からの強い要望により購入され、作家にとっても初の体験となった。



●第32回企画展 存在と生活のアート vol.10「Enjoy! Open!! Swing!!!」

会期：2014年2月20日～3月9日

芸術創作活動「オレたちひょうげん族」や清掃活動「ゴミコロリ」、京都人力交通案内「アナタの行き先、教えます。」など、多彩な活動をユーモアたっぷりに展開している京都の「NPO 法人スウィング」の紹介展。



絵、詩、モノ、映像を通じて、「アート」の可能性と「働き」の多様性について提案する内容は、そのユニークさで、多くの来廊者が訪れた。

●第33回企画展 「Creative Spirit Art Center Exhibition」

会期：2014年3月20日～4月6日

主催：Creative Spirit Art Center（クリエイティブ・スピリット・アート・センター／カナダ・トロント）

共催：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

1992年カナダ・トロントに開かれた、障害を持った人たちのためのスタジオ兼アートギャラリー「クリエイティブ・スピリット・アート・センター」を紹介する作品展示。オープニングには、ディレクターであるエレン・アンダーソンさんと、ボランティアスタッフの久保田友理子さん（元当法人ボランティア）によるギャラリートークを開催し満員となった。



●【その他】3331 Art Fair -Aiming for 100 Collectors' Prize

会期：2014年3月7日～3月16日

会場：3331 Arts Chiyoda 1F メインギャラリー

主催：3331 Arts Chiyoda

A/A gallery から、溝上強さんと藤橋貴之さんの作品を出展。レセプションパーティには、溝上さんが長崎からご家族と参加。藤橋さんの作品がコレクターにより購入された。



（2）ウェブサイトにおける原画販売作家の一元管理

おもにエイブル・アート・アワード、A/A gallery での取り扱い作家、エイブルアート・カンパニーの登録作家を中心に、原画販売のための作家作品情報サイトを構築し、原画売買の窓口機能を一元化する予定だったが実現できていない。

2. A/A shop 事業

- A/A gallery 事業と連動し、効果的な期間のみ、限定で商品を取り扱う。
- 商品の仕入れ、管理をエイブルアート・カンパニーに委託した。

3. エイブルアート・スタジオ事業

◎ 方針

- A. 運営委員会による独立採算事業を実施する。
- B. セミナーやサロンなど、人が集う場や企画を実施する。

（1）アトリエ活動 会場：アーツ千代田 3331 B105（レンタルスペース）

アトリエ・ポレポレ	ファシリテーター サイモン順子さん	毎月第2、4土曜日 13:00～17:00	登録メンバー：24人 年会費 5,000円 1回 2,500円
-----------	----------------------	--------------------------	------------------------------------

エイブルアート 芸術大学	ファシリテーター 中津川浩章さん	毎月第2日曜日午後 14:00~17:00	登録メンバー：20人 年会費3,000円 1回2,500円 ボランティア：登録13人(常時3~5人程度がサポート)
-----------------	---------------------	--------------------------	---

◎ 特記

・エイブル・アート・ジャパンの事業として発足したが、その後（当法人の理由により）運営委員会的方式で運営していただいている。可能な限り、要望に応じたサポートを行う。

・エイブルアート芸術大学については総会の際にサポート体制への要求があった。したがって①7月からウェブサイトでボランティアを募集し、常時3~5名が活動。②緊急時にどのようなサポートを必要とするか、精神保健福祉士の方にアドバイスをいただき環境整備につとめた。③資金不足で画材が購入できなかったため、ターナー色彩株式会社から画材を提供していただく。現在は参加者が増え、独立採算ベースになっている。

(2) 会員および関連団体による企画 協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

てつがくカフェ@せんだい× とうきょう	主催：てつがくカフェ @せんだい×とうき ょう実行委員会	2014年2月1 日(土)	アーツ千代田 3331 内 (2カ月に一度開催)
アーツ&クラフツガーデン@ アーツ千代田 3331	主催：モノづくりサロ ン実行委員会	2014年3月23 日(日)	アーツ千代田 3331・1階コミュニ ティスペース

4. エイブルアート・カンパニー事業

◎ 方針

エイブルアート・カンパニーは「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」として、3つのNPOにより共同で設立された事業。設立7年目となり、登録アーティストは全国22都府県から78名、登録作品は約7,401点になった。

アパレルの取引先は年度ごとに入れ替わることが多いため、全体的な著作権使用料の売上はほぼ横ばいである。利益率が最も高い印刷物等の取引を増加させるために、大手ストックフォトとの契約をすすめてみたが大きな動きは生まれなかった。逆に、東北の福祉施設支援を目的とした大口のノベルティ販売がきわだった。

(1) 基盤整備

第7期カンパニーアーティスト（登録作家）が5名デビュー

選考会により選ばれた5名の作家がデビュー； 大西節子さん、福島由輝也さん、吉川明広さん、清水敬太さん、小林弘典さん

- 第8期カンパニーアーティストを募集（10月~12月）。2014年5月に8名が追加登録。
- ウェブサイトの改訂~かきおろし作品・作家情報の掲示

(2) 著作権使用（特記のみ）

- 運動会のメダルに採用「TAKARAMONO-MEDAL」



カンパニーアーティストの太田宏介さんが「元気な太陽」、
「大地に根をはる植物」をテーマに描き下ろしをし、子ども
たちの運動会のメダルへ採用された。



● Able Art T-shirt を DHC が発売

(株)DHC と初のコラボレーション。3種のアートワークを活
かして T-シャツが発売された。好評につき 2014 年度も継続
展開が決定。

● ロックイベント「2013 サマーソニック」オフィシャルTシャツ 継続発売

2010 年から始まり今年で 4 年目の企画。昨年同様、被災地の障がいのある人たちの仕事を支援するために売
り上げを寄付していただいた。今年のアーティストは Máscara Contra
Máscara (マスカラ・コントラ・マスカラ)。



● H TOKYO × tabio × Able Art Company トリプルコラボ企画

靴下専門店の Tabio とハンカチ専門店の H TOKYO とのトリプルネームが
実現。同柄で靴下とハンカチが全国展開された。

● 「エイブルアート年賀状」2014 年午年に採用

販売・製作：プリプレス・センター

「エイブルアート年賀状」として午モチーフの作品が年賀状となった。採用アーティストは 9 名。寄付付き
の年賀状として年賀状ショッピングサイトの“Cardbox”と“大丸藤井セントラル”で販売し好評を得た。
2014 年度は描きおろし作品により質を高め、マーケット拡大をめざす。

● 京都のブランドから、風呂敷などが発売

高島屋京都店の企画により、京都の着物メーカー・京朋のブランド「yuugi」より商品が発売。森豊和さん
のイラストが染色職人の手により、風呂敷・トートバッグ・ポーチになった。

● (株) フェリシモ

岩崎菜摘子さんのイラストで「トリのボタンカバー」が 12 月に商品化された。また 2014 年 4 月には 7 名の
アーティストのイラストを全面に使用したフェイスタオルが発売。

(3) 商品販売・展覧会

● 商品販売

期間限定ショップ「HUMORA ユーモラ」

会期：10月18日(金)～11月4日(月)	会場：ヒッコリースリートラベラーズ(新潟)
会期：11月22日(金)～12月1日(日)	会場：パルコ仙台店・3階特設会場
会期：12月5日(木)～12月25日(水)	会場：A/A gallery(東京)
会期：2月7日(金)～2月16日(日)	会場：パルコ名古屋店・東館 B1 特設会場

● 展示会・商品販売

「Good Job 展」で活動紹介・商品出展

会期：11月29日(金)～12月1日(日) 会場：渋谷ヒカリエ

会期：12月15日(日)～17日(火) 会場：せんだいメディアテーク

会期：2月1日(土)～9日(日) 会場：奈良県文化会館

会期：2月16日(日)～17日(月) 会場：イムズプラザ(福岡)

● その他

「オバケとパンツとお星さま」：ナディッフ コンテンポラリー(13.6.29-9.4)、「風曜日によろこそ vol.89」：大津市・椿野邸(13.9.28-10.4)、「京都いい MONO 再発見」：高島屋京都店(14.2.19-25)、「暮らしの道具」：高島屋大阪店(14.2.26-3.11)、「大東北展」：高島屋大阪店(14.3.5-3.11)、「がんばろう!!東北物産展」：松坂屋上野店(14.3.5-3.11)、「クラ de クラ」：半田市・春扇楼 末廣(14.3.8) ほか

● 企業ギフト・ノベルティ・販売会

東京の大手企業は、震災の復興支援事業を熱心に継続している。とくに CSR 部の方たちとの付き合いから大口の商品販売などの機会を得た。

- (1) 武田薬品工業株式会社における【労使共催】復興支援企業内マルシェ(全国版)(以下、企業内マルシェ)商品として宮城・福島の商品のカスタマイズを行った。
- (2) (1)の「企業内マルシェ」商品の企画コーディネートを行った。のぞみ福祉作業所(宮城県南三陸町)のモアイ柄フェイスタオル856枚、まちの工房まどか(宮城県仙台市)のトートバック589個、南相馬ファクトリー(福島県南三陸町)の缶バッチ1100個を作成・納品した。
- (3) 武田薬品工業株式会社ヘルスケアカンパニーの社内行事記念品として、510個の被災地支援寄付商品を販売した。
- (4) のぞみ福祉作業所のモアイ柄フェイスタオルのカラーをカスタマイズし、企業のノベルティ商品として販売。のぞみ福祉作業所に対する著作権使用料をコーディネートした。
- (5) 企業 CSR 部との共同により、宮城県山元町「工場地球村」の社内商品販売会のコーディネートした。

(4) その他

● 基本のスキンケア&メイク講座～定例講座

働いている、または働く準備をしている障害のある人を対象にした講座のシリーズ。

日時：第28回4月21日(日)、第29回9月8日(日)、第30回11月17日(日)、第31回3月16日(日)中止

●福祉の Beauty 革命！スキンケア&メイク講座チャレンジコース
ワンランクアップしたメイク術を学びたい方向けの講座

日時：第1回6月16日(日)、第2回12月8日(日)

会場：ハーバーサロン(東京都千代田区有楽町1-12-1)14:00-16:00

参加費：1,050円(スキンケアセットとリップ、オリジナルパンフレットつき)

● 基本のスキンケア&メイク講座～出張講座



日時・会場 計10件

- 4月24日：就労移行支援事業所 フォレスト（東京：葛飾区）男性：20名、女性：6名
7月7日：戸塚就労支援センター（神奈川：戸塚市）男性：29名、女性：22名
8月2日：(株)ビルケアビジネス（東京：葛飾区）男性：15名、女性：12名
10月18日：障害者支援センター松が丘園（東京・淵野辺）女性5名、男性9名
11月13日：就労移行支援事業所 フォレスト（東京：葛飾区）男性13名、女性6名
2月24日：小田原養護学校大井分校（神奈川・小田原市）男性5名、女性8名
3月4日：東京都立町田の丘学園（特別支援学校）（東京都・町田市）男性30名、女性11名
3月10日：筑波大学附属視覚特別支援学校（東京都・護国寺）女性8名
3月15日：大和市自立支援センター（神奈川・大和市）男性8名、女性4名

5. 鑑賞支援事業

2013年度は無しとの予定であったが、下記委託事業を実施。

●川崎市市民ミュージアム 「見える人・見えない人 一緒に楽しむ鑑賞会」（受託事業）

日時：2013年9月22日[日] 10:00~12:00・13:30~16:30/9月1日[日] 13:30~16:30

会場：川崎市市民ミュージアム開館25周年記念教育普及事業「柴川敏之 | 2000年後の今に触れる☆プロジェクト | PLANET TACTILE」の関連イベント。視覚に障がいがある人となない人が、対話をしながら鑑賞するプログラムを実施。

主催：川崎市市民ミュージアム

プログラムコーディネート、ワークショップ運営・進行：NPO法人エイブル・アート・ジャパン（担当：梅田亜由美、太田好泰）

6. 企画制作事業

(1)「モノづくりサロン」

◎ 背景と方針

関東においても当法人がプラットフォームとなり、福祉施設職員やデザイナーが学び合い、具体的な事業が生まれるような活動をともに行うため、有志による運営委員会方式で連続講座を組み立て実施。

日時：8月9日、9月13日、10月11日、11月8日、12月13日 18:30~20:30

会場：A/A galley 内オープンスペース

運営チーム：前川亜希子（デザイナー）、加藤美礼（コミュニケーションデザイナー）、河原由香里（編集者）、当法人のスタッフ

◎報告

- ・広報宣伝と交流を兼ねた7月（アーツ千代田の1階）のプレイベントでは、参加費2,500円で約70名を迎えた。
- ・5回連続シリーズの参加者30名も早々に定員に達し（キャンセルまち8名）、これまで接触のなかった東京都・千葉・神奈川の施設が参加。また埼玉セミナー参加者が参加。
- ・講師謝金、運営スタッフ人件費、会場費、広報宣伝費などすべて独立採算となるような方式としている。

・広報活動のなかで、東京 23 区役所/障害福祉課を 8 割方ローラーでまわり営業活動を行った。豊島区、文京区、港区などから反応があった。文京区については、平成 27 年度の企画事業や受託事業に発展する可能性を模索している。

(2)「つながり&しごとおこしワークショップ」@福島(受託事業)

◎ 背景と方針

福島の間支援組織の推薦により、当法人へ研修事業の企画運営の相談があった。昨年度開催したセミナーの継続、および福島における実践の報告の場を模索していたため、積極的に受託することとした。当法人は、企画・運営・進行を担当している。

① 2 回連続講座

日時：第 1 回 2013 年 10 月 16 日[水] 10:00~16:00

第 2 回 2013 年 11 月 14 日[木] 10:00~16:00

会場：創空間 富や蔵(福島県郡山市)

定員：各回 30 名

② オープンセミナー

日時：2013 年 12 月 5 日(木) 10:00~16:00

会場：二本松市市民交流センター 多目的室(福島県二本松市)

定員：100 名

①②共通

参加費：無料

主催：AAR Japan [NPO 法人難民を助ける会]

協力：JDF 被災地障がい者支援センターふくしま、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

助成：アクセンチュア株式会社

7. 調査研究事業

2013 年度はなし。

8. 出版事業

2013 年度はなし。既存の書籍は販売。

9. 助成事業

(1) 第 15 回エイブル・アート・アワード

● [展覧会支援の部]【特別展】松尾由佳展

昨年度のエイブル・アート・アワードの選考会と、これまでのアワードを振り返るカフェトークであげられた提案より、過去の受賞作家のうち、現在も活動を継続している作家の新作を紹介した。

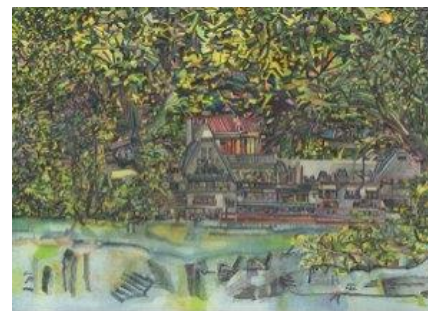
会期：2013 年 12 月 16 日(月)~21 日(土)

11:00-19:00 最終日は 17:00

会場：ギャラリー・グラフィカ bis(東京都中央区銀座 6-13-4 銀座 S2 ビル 1 階)



特別協力：ガレリア・グラフィカ 協賛・寄付：花王ハートポケット
倶楽部／花王株式会社／富士ゼロックス端数倶楽部／富士ゼロックス
株式会社（以上、展覧会支援の部）協力：エイブルアート・カンパニ
ー、財団法人たんぽぽの家



◎特記：アワードの展覧会后、富士ゼロックス端数倶楽部の協力によ
り1月の内覧会の期間に合わせショールームで作品展示が実現し、会
場内でゼロックスの印刷機を使用したパンフレットが作成され配布された。3月には、たんぽぽの家 HANA
ギャラリーでも作品展示と販売を行った。

●【画材支援の部】 公募

松田油絵具株式会社様の「マツダ絵具賞」のほかに、新規にターナー色彩株式会
社様にもご協力いただき、「ターナー絵の具賞」の2つの賞を選考する〔画材支援
の部〕の公募を行った。

応募締切：2013年12月27日、選考：1月上旬、絵の具贈呈：2月

協賛・寄付：松田油絵具株式会社／ターナー色彩株式会社（以上、画材支援の部）



「画材支援の部」受賞者

◎マツダ賞 個人または団体 油絵具：各1セット

本田 正さん（福島県 須賀川市）、松村 俊行さん（青森県 八戸市）

◎ターナー絵の具賞

a. 個人2名 アクリルガッシュ 20ml 36色セット：各1セット

高木 秀俊さん（新潟県 長岡市）、中洞 紀子さん（神奈川県 相模原市）

b. 団体2か所 イベントカラー 550ml スパウトパック BOXセット：各1セット

やすらぎの杜（東京都 練馬区、わらべ亭（大阪府 枚方市）



（2）第4回埼玉県障害者アートフェスティバル

「障害者アートマネジメントセミナー」（受託）

企画運営が4年目となる。施設の側に働きかけを行うことはもっとも重要なことであるが、地域社会、市
民社会に働きかけを行わない限り、障害のある人たちの人権の尊重、地域生活での理解、アートの受容、
製品の市場はどれも広がらない。よって、障害のある人のアートの意義を福祉の現場から語る事例と、社
会的な拮がりや活動を行っている事例とを組み合わせた構成にして提案した。

日時：2014年1月10日（金） 10：00～16：30

会場：埼玉会館3C会議室 参加者：100人

主催：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会、企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパ
ン

10. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 法人のウェブサイトおよびSNSの活用による広報活動促進など

- NPO法人エイブル・アート・ジャパンのウェブサイトの運営
6月より新サイトをオープンし、各種事業と会員により寄せられた展覧会やイベント情報を掲載している。フェイスブックの利用も始め、「いいね！」は6月160名⇒10月530名⇒2014年4月973名に。
- データベースの構築（総務部門に記載）
- 民間寄付の強化として下記の事業に参加

①オンライン寄付サイト「Give one（ギブワン）」

プログラム追加登録

これまでの「エイブル・アート・アワード支援」に加え、「エイブルアート・スタジオ支援」、「東日本大震災復興支援活動支援」をエントリーした。寄付の呼びかけを行うアクションを定期的に行わないとなかなか大きな金額にはならない。会員を含め、チームやプロジェクトを検討する。



②良品計画株式会社「無印良品募金」募金券

12月の国際障害者デーを目標にして11月下旬からスタート（1か月間のみ）。金額は大きくないが、「くらしの良品研究所」のサイトで、当法人スタッフと良品計画のスタッフとの対談記事が紹介された。

●net TAM「トヨタ・エイブルアート・フォーラム」のその後を追う連続寄稿シリーズ

net TAM事務局チームが寄稿シリーズを企画。2013年春、「芸術環境 KAIZEN ファイルFile4」に、エイブルアート・カンパニーによる「アート×福祉×ビジネス」の取り組みを紹介したところ、多くの方から反響があったことがきっかけ。「障がい者アートを支える人」のネットワークが各地にできる元となった、「トヨタ・エイブルアート・フォーラム」にスポットをあてて、障がい者アートの変化とそこから花開いた様々な活動を紹介している。当法人では、執筆者の推薦や取次などをサポートした。寄稿者は、以下の通り。

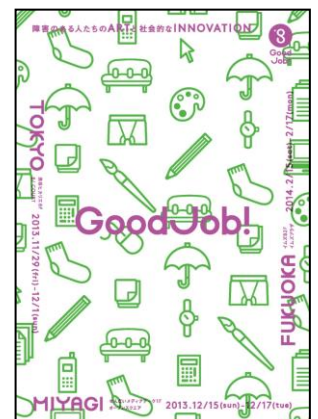
- ①クリエイティブサポートレッツ（浜松）理事長 久保田翠さん
- ②やまなみ工房（滋賀）施設長 山下完和さん
- ③アートセンター画楽（高知）代表 上田祐嗣さん
- ④特定非営利活動法人まる（福岡）設立者・施設長 吉田修一さん、代表理事 樋口龍二さん

(2) インターン・ボランティアの受け入れ

インターン、ボランティアを積極的に受入れ、事業の参画者となるべき次世代の人材を育成していく。2013年度は、スタジオ運営時やイベント開催時に目的別に募集し活動してもらっている。

(3) Good Job! プロジェクト

「アート×デザイン」をキーワードに、障害のある人の社会参加と仕事づくりを進めていくことをめざし、2013年度に本格的に始動。これまで取り組んできた障害のある人のアートのデザイン使用を中心に進めてきたエイブルアート・カンパニーやアートセンターHANA発のブランド「dart」などを事例に、障害のある人のアートとコミュニティの資源（企業や地場産業、大学等）が連携する仕組みをつくり、社会のなかに新しいイノベーションを起こすことを目的とした。東京、仙



台、福岡で12,000人が来場した。

主催：財団法人たんぽぽの家、共催：NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる、後援：宮城県、仙台市、福岡市、助成：日本財団

● 「Good Job！」展の開催

11月29日（金）～12月1日（日）渋谷ヒカリエ8F/COURT（東京都渋谷区）

12月15日（日）～17日（火）せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア（宮城県仙台市）

2月1日（土）～9日（日）奈良県文化会館（奈良県奈良市）

2月16日（日）～17日（月）イムズB2Fイムズプラザ（福岡県福岡市）

● 「Good Job！セミナー」の開催

11月29日（金） 東京／ダイヤモンド社会石山記念ホール／定員90人

12月15日（日） 宮城／仙台メディアテーク1Fオープンスクエア／定員70人

2月15日（土） 福岡／イムズセミナールーム／定員70人

（4）東日本大震災の支援活動の継続

2013年度もプロジェクトを発展させ、東北の障害のある人、ケアする人たちへの支援を行う。アートとデザインを通して障害のある人の仕事づくりを行う「Good Job！東北プロジェクト」などを実施する。

主催：財団法人たんぽぽの家、企画・運営：エイブルアート・カンパニー（詳細は関連資料1）

（5）海外交流

●オーストラリア「クロスロードアーツ」

クイーンズランド州ブリスベンからさらに北に1000キロ北上したところ、マッカイという都市にある「クロスロードアーツ」から3名が訪問・調査・交流を目的に来日。アニメ、人形劇、ダンス、音楽などの複合的な表現領域に取り組んでおり、表現のクオリティも高い。認知症の高齢の方たちと記憶をたどるワークショップ、2008年、2010年のクイーンズランドの水害のおり、コミュニティの回復にむけてアートアクティビティなどを実践しており当法人のほか、福島「ふたば製作所」、奈良のたんぽぽの家も訪問した。

●ルクセンブルク「COOPERATIONS」(A/A galleryに一部記載)

2006年の豪日交流基金事業（日豪の障害のある人・関係者が交流）以後、草の根レベルでの交流がつづいている。2012年にひきつづき作品の出展依頼がきたため、10月にたんぽぽの家から2名、12月にA/A galleryから藤橋貴之さんと星野祥代さんの作品を紹介した。

●カナダ「クリエイティブスピリット」(A/A galleryに記載)

カナダの障害のある人のアートセンター「クリエイティブスピリット」の展覧会。